

# 障害者本人等への学校卒業後の学習活動 に関するアンケート調査 (文部科学省委託事業) 【結果概要・速報値】

イノベーション・デザイン&テクノロジーズ株式会社

## 1 目的

障害者及び家族に障害者がいる方等を対象に、生涯学習活動への参加状況、阻害要因・促進要因、学習ニーズ等に関する情報を収集する。

## 2 実施時期および方法

平成30年11月29日～12月5日

障害者及び家族に障害者がいる方等をモニターに有するインターネット調査会社による、無記名式のインターネット調査。

## 3 対象

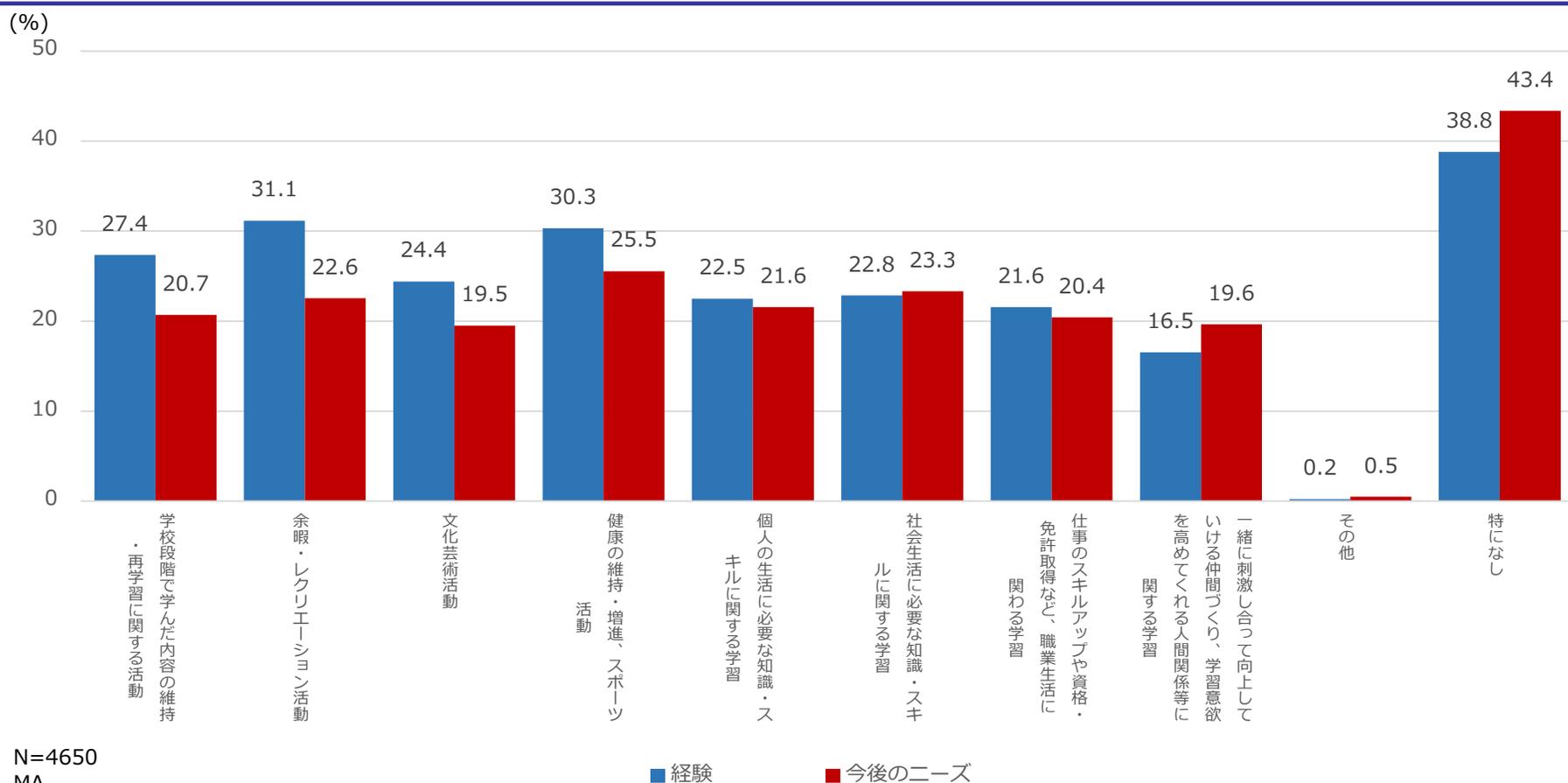
インターネット調査会社が保有するリサーチモニターのうち、以下に該当する者を調査対象とした。

- ・障害本人あるいは家族に障害者がいるリサーチモニター
- ・障害者の対象年齢: 18歳以上

計4,650名(身体障害(視覚) 493, 身体障害(聴覚) 494, 身体障害(肢体不自由)(車椅子, ストレッチャー等が必要) 496,  
身体障害(肢体不自由)(車椅子, ストレッチャー等不要) 509, 知的障害 489, 精神障害 505, 発達障害(自閉症あり) 432,  
発達障害(自閉症なし) 601, その他(音声・言語・そしゃく機能障害, 内部障害, その他) 631)

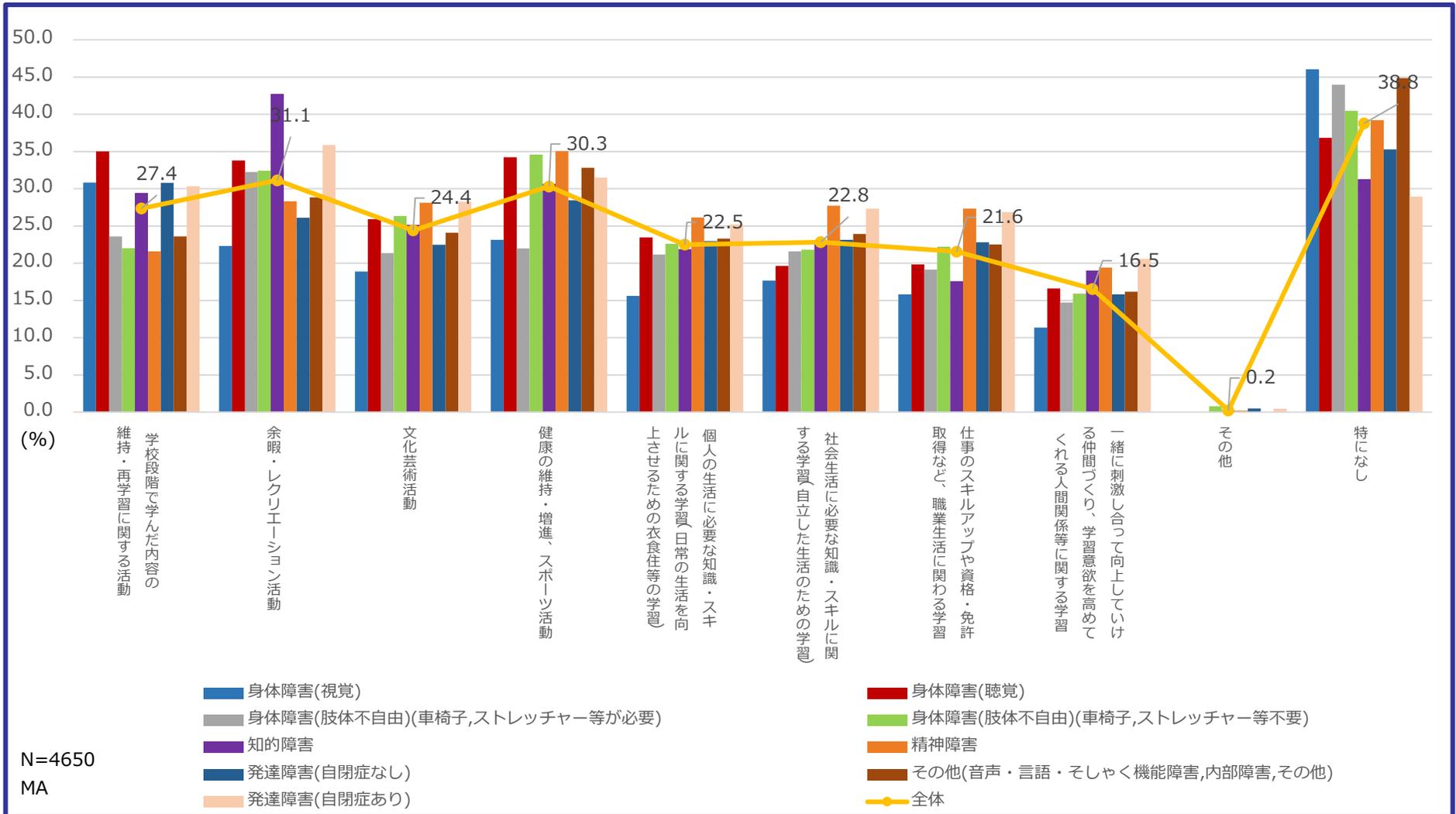
# 学校卒業後の障害者の学習内容別生涯学習経験と今後のニーズ (MA)

- 生涯学習の経験については「余暇・レクリエーション(31.1%)」「健康維持・増進, スポーツ(30.3%)」「学校段階で学んだ内容の維持・再学習(27.4%)」の順。
- 生涯学習の今後のニーズについては「健康の維持・増進, スポーツ活動(25.5%)」「社会生活に必要な知識・スキル(23.3%)」「余暇・レクリエーション活動(22.6%)」の順。
- 一方, 経験よりも今後のニーズが高いものとしては, 「一緒に刺激し合う仲間づくり等(3.1ポイント)」「社会生活に必要な知識・スキル(0.5ポイント)」があがる。



# 学習内容別の生涯学習経験① (障害種別; MA)

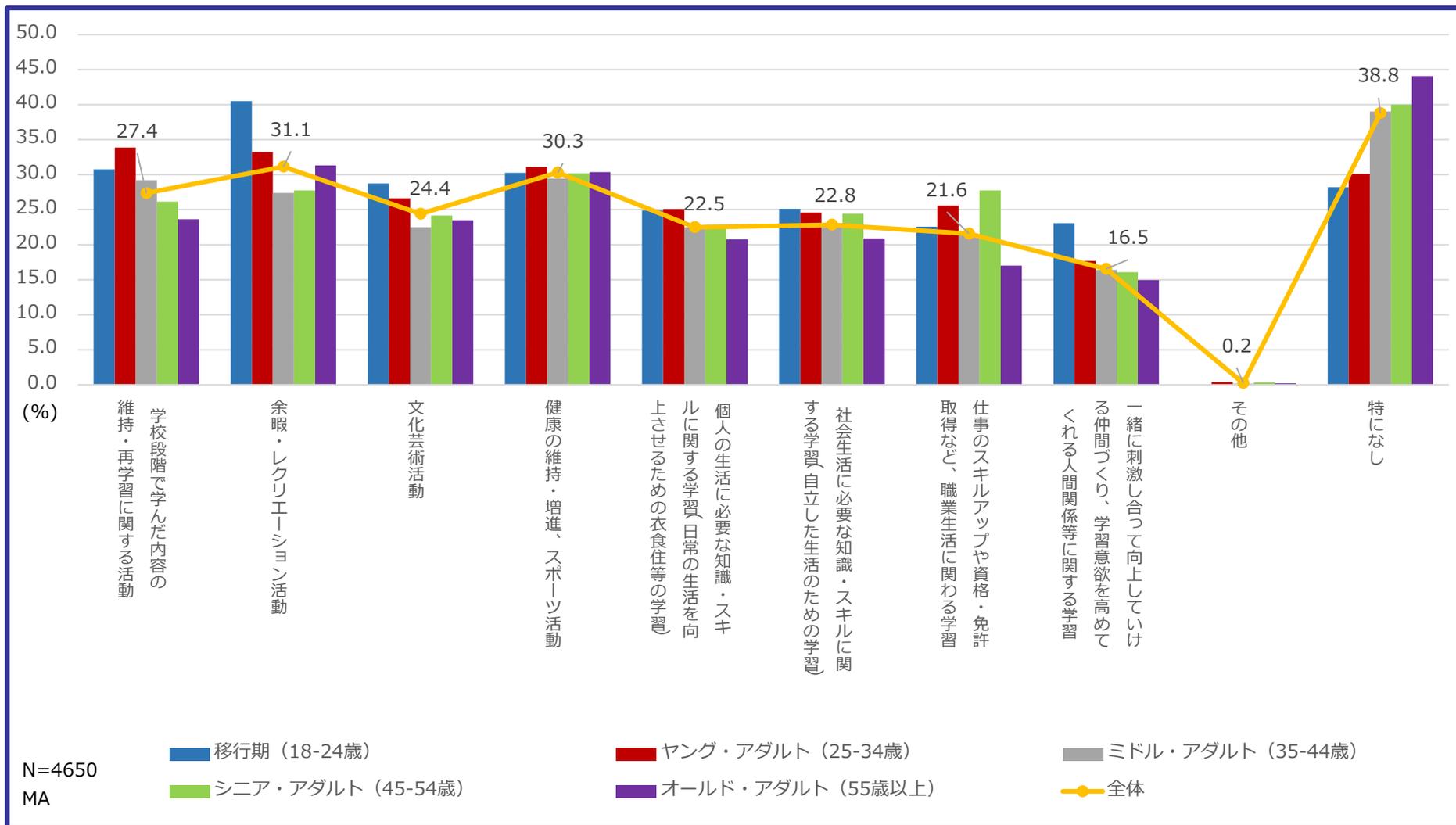
- 知的障害がある者は「余暇・レクリエーション活動(42.7%)」とする比率が他の障害種別に比較して高い傾向。



## 学習内容別の生涯学習経験②（ライフステージ別；MA）

- 移行期(18-24歳)は他のライフステージに比較して「特になし(28.2%)」が最も低い傾向。

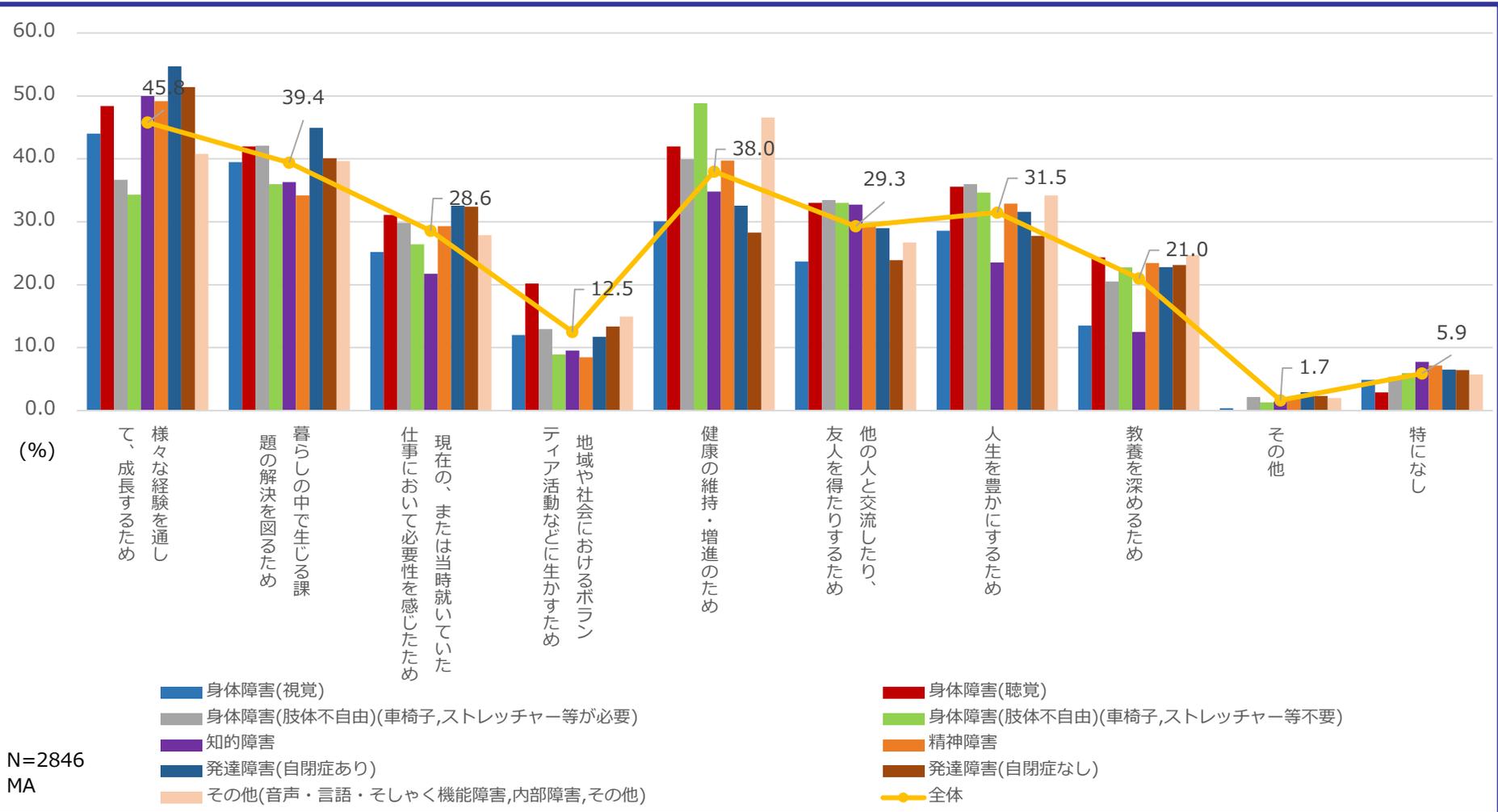
\*ライフステージ: 東京学芸大学 菅野教授提唱の年代モデルを適用して整理



# 生涯学習を実施した理由① (障害種別; MA)

\* 「生涯学習の経験を有する」との回答者のみの回答

- 全体としては、「様々な経験を通じた成長(45.8%)」「暮らしの中で生じる課題解決(39.4%)」「健康維持・増進(38%)」の順となっている。
- 身体障害(肢体不自由)(車椅子,ストレッチャー等不要)がある者は「健康の維持・増進(48.8%)」が他の障害種に比較して高い傾向。



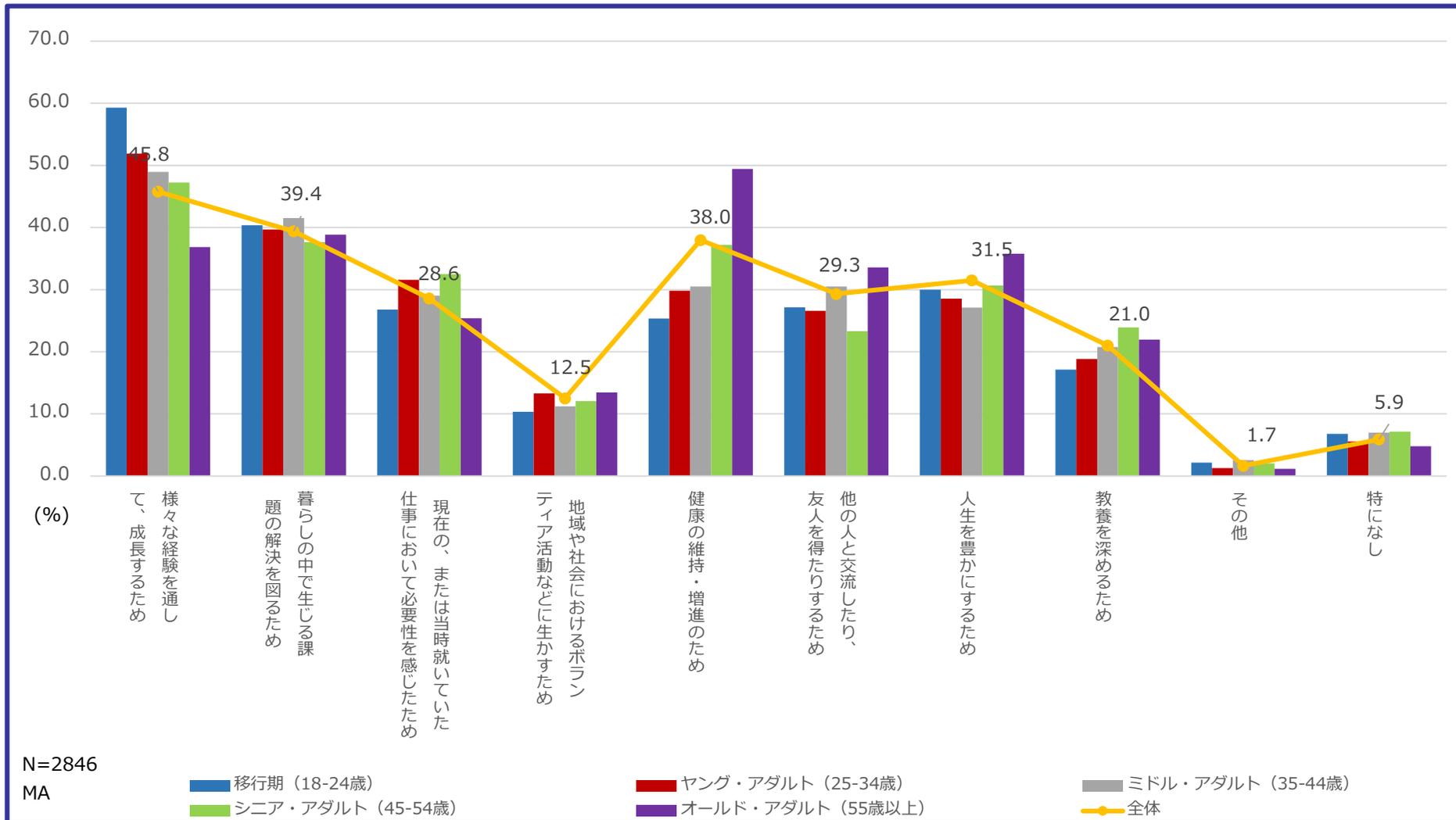
N=2846  
MA

出典:文部科学省「学校卒業後の障害者が学習活動に参加する際の阻害要因・促進要因等に関する調査研究」

## 生涯学習を実施した理由② (ライフステージ別; MA)

\* 「生涯学習の経験を有する」との回答者のみの回答

- 移行期(18-24歳)は「様々な経験を通して、成長するため(59.3%)」が高い傾向。
- オールド・アダルト(55歳以上)は「健康の維持・増進のため(49.4%)」が高い傾向。

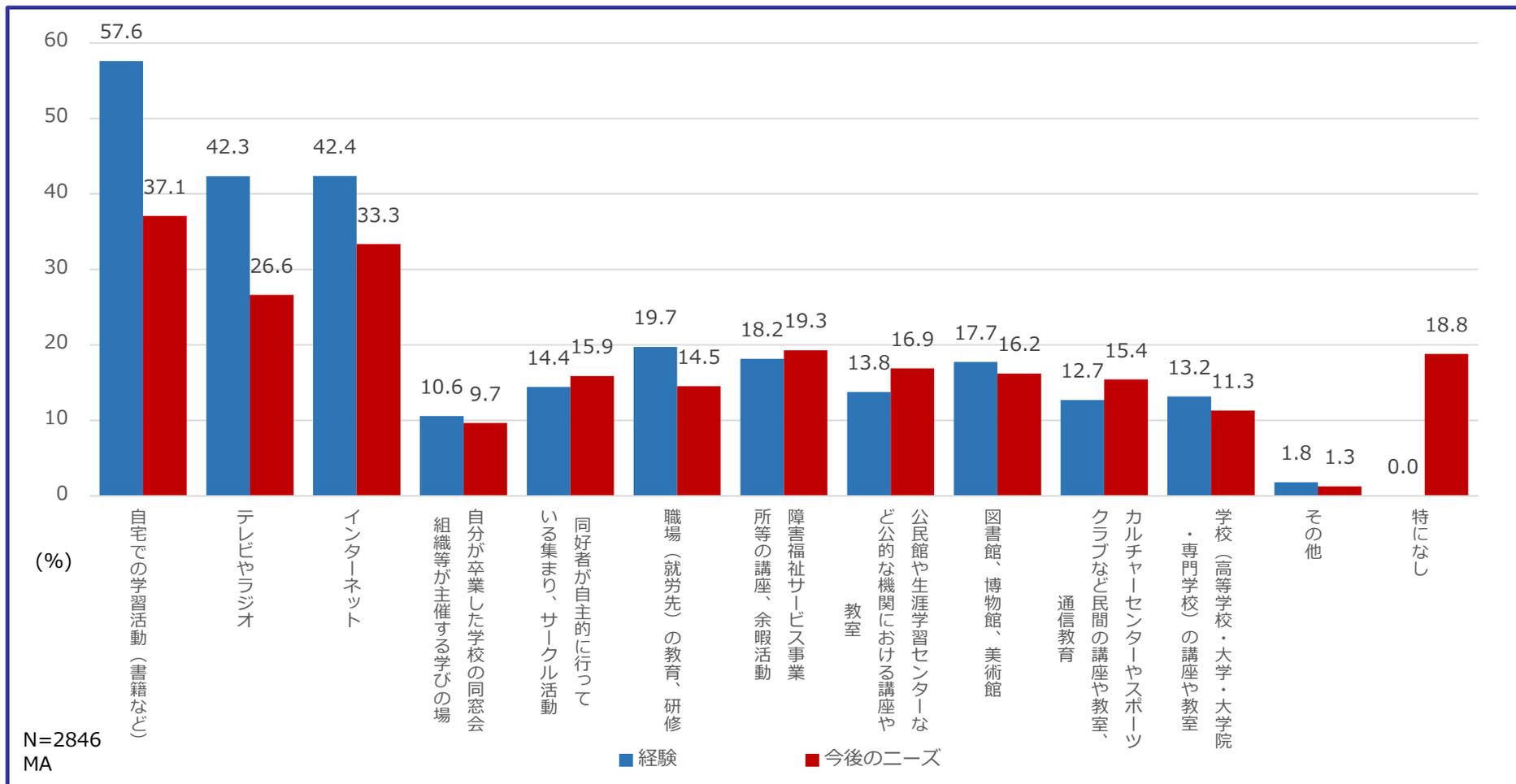


出典:文部科学省「学校卒業後の障害者が学習活動に参加する際の阻害要因・促進要因等に関する調査研究」

# メディア・学習拠点活用経験と今後のニーズ (MA)

\* 「生涯学習の経験を有する」との回答者のみの回答

- メディア・学習拠点別の活用経験としては「自宅(57.6%)」「インターネット(42.4%)」「テレビやラジオ(42.3%)」が突出。
- メディア・学習拠点別の今後のニーズも「自宅(37.1%)」「インターネット(33.3%)」「テレビやラジオ(26.6%)」となっている。
- 経験に比較して今後のニーズが高いものとしては「公民館や生涯学習センターなど公的な機関における講座や教室(3.1ポイント)」「カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室、通信教育(2.7ポイント)」「同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動(1.5ポイント)」「障害福祉サービス事業所等の講座、余暇活動(1.1ポイント)」があがる。

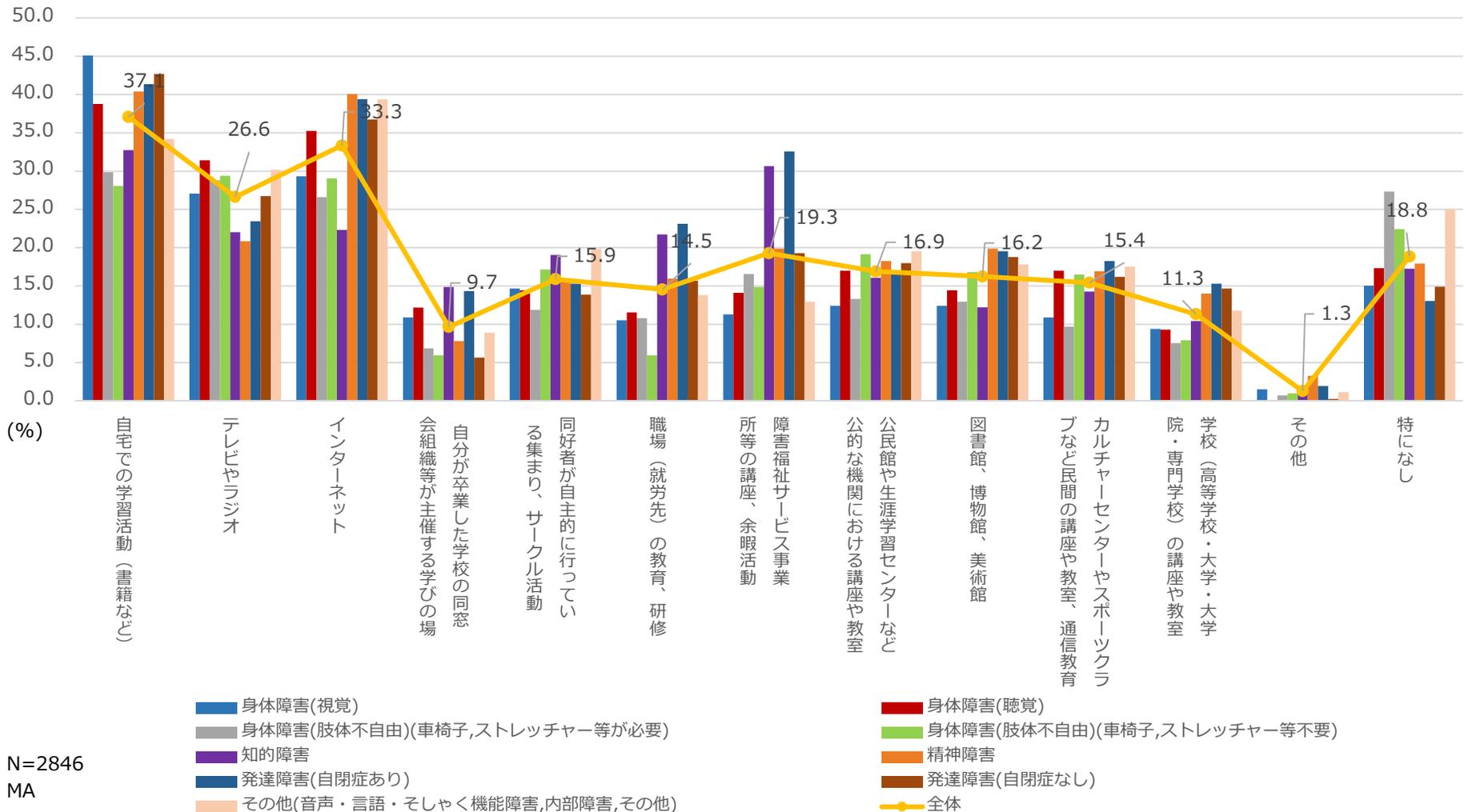


出典: 文部科学省「学校卒業後の障害者が学習活動に参加する際の阻害要因・促進要因等に関する調査研究」

# 今後のメディア・学習拠点別活用ニーズ①(障害種別; MA)

\* 「生涯学習の経験を有する」との回答者のみの回答

- 知的障害がある者は「障害福祉サービス事業所等の講座、余暇活動(30.7%)」が高い傾向。
- 発達障害(自閉症あり)がある者も「障害福祉サービス事業所等の講座、余暇活動(32.6%)」が高い傾向。



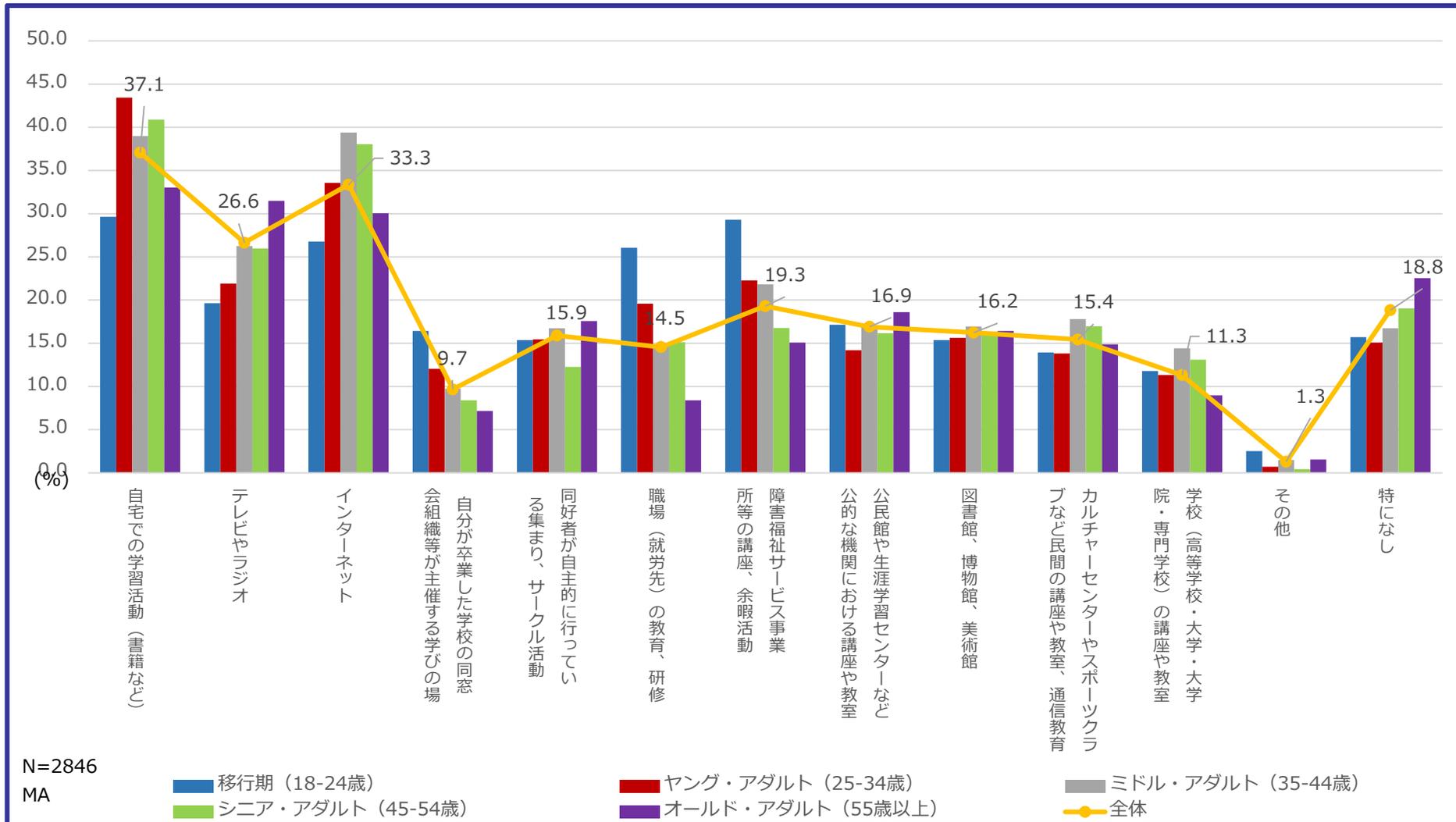
N=2846  
MA

出典: 文部科学省「学校卒業後の障害者が学習活動に参加する際の阻害要因・促進要因等に関する調査研究」

# 今後のメディア・学習拠点別活用ニーズ②(ライフステージ別; MA)

\* 「生涯学習の経験を有する」との回答者のみの回答

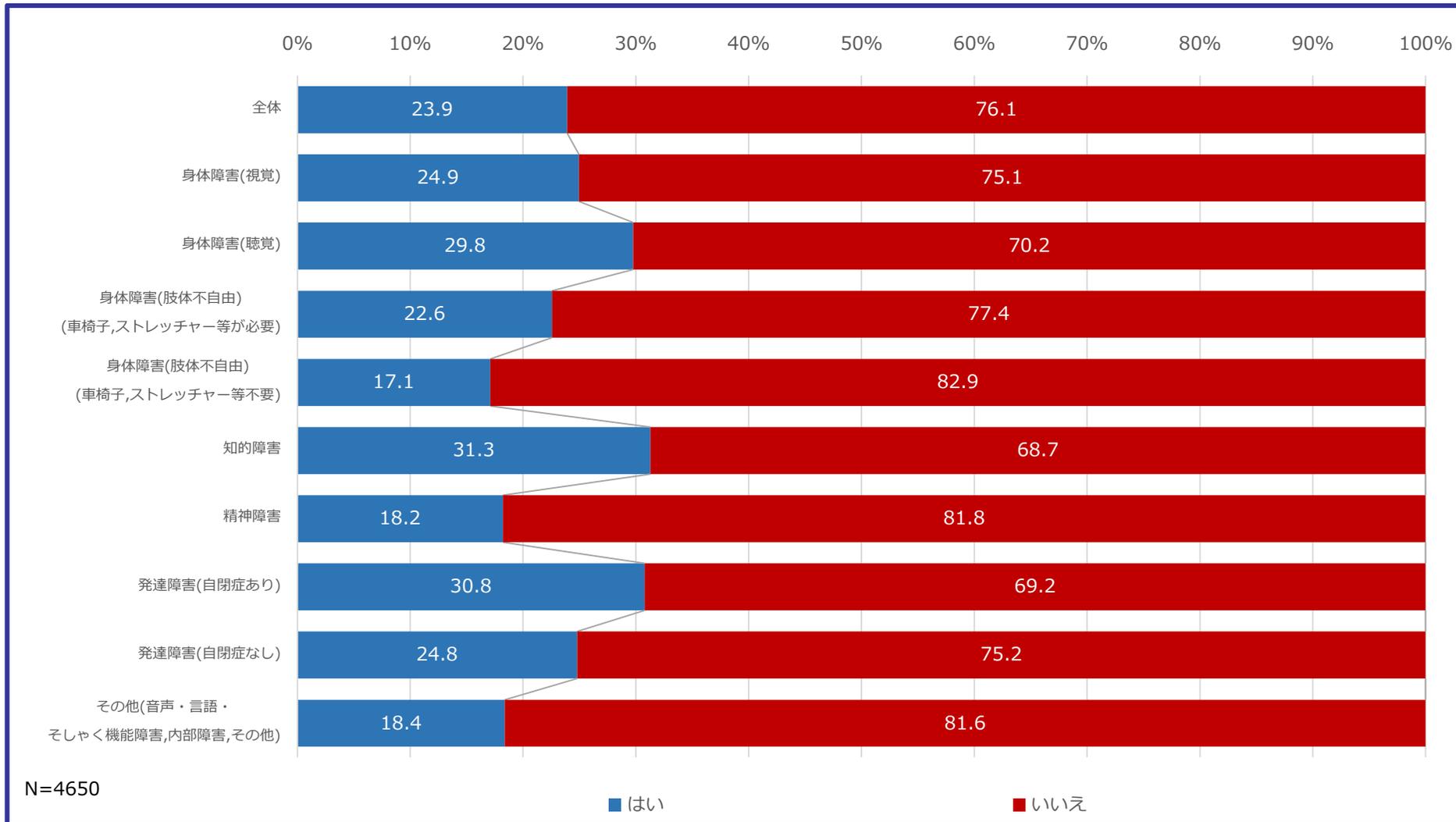
- 移行期(18-24歳)は「障害福祉サービス事業所等の講座、余暇活動(29.3%)」「職場(就労先)の教育, 研修(26.1%)」が他のライフステージに比較して高い傾向。



出典:文部科学省「学校卒業後の障害者が学習活動に参加する際の阻害要因・促進要因等に関する調査研究」

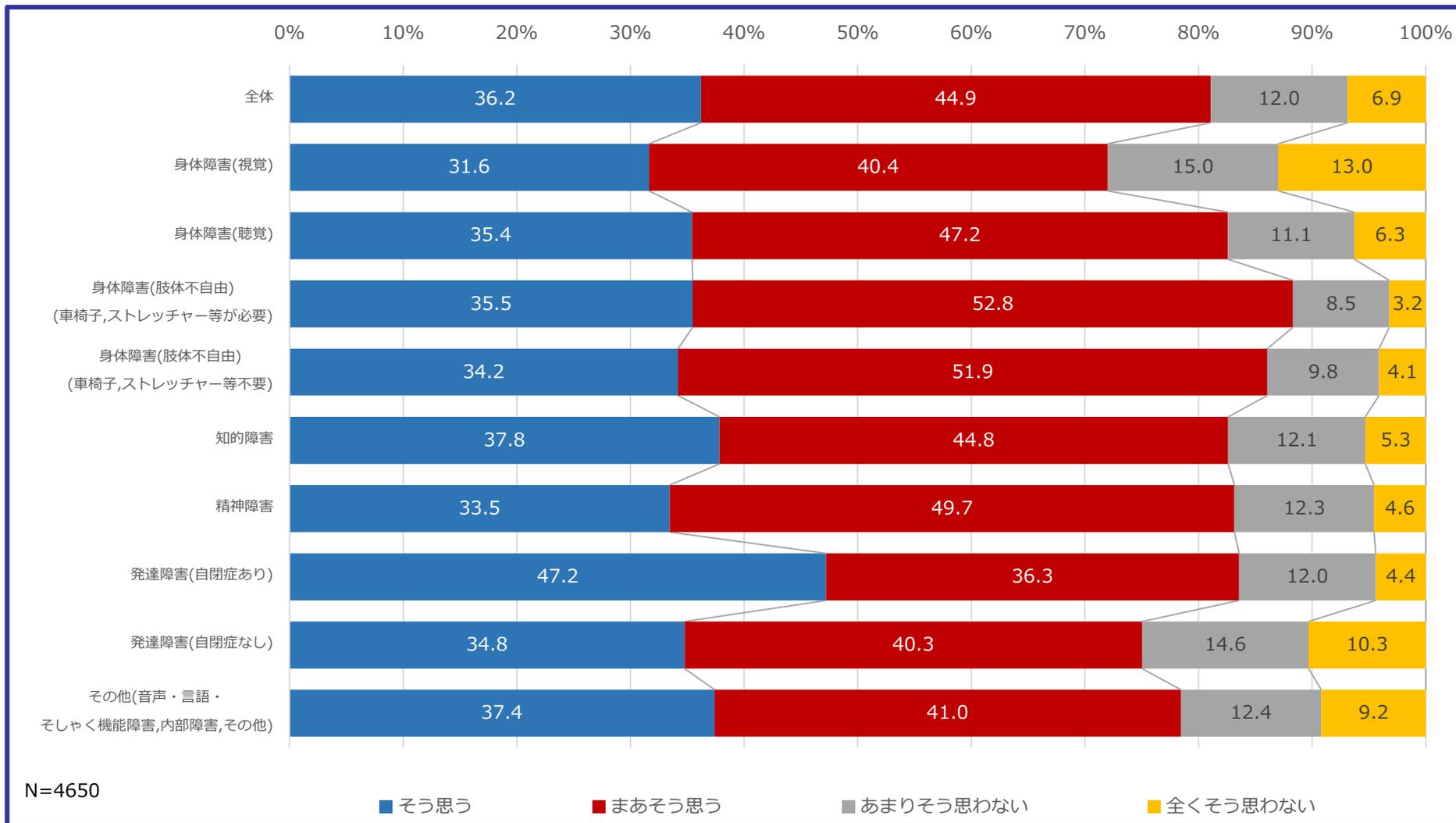
# 「障害者権利条約」における「生涯学習の確保に関する規定」記載の認知（障害種別）

- 全体としては「障害者権利条約」において「生涯学習の確保に関する規定」が記載されていることを認知している者は23.9%となった。



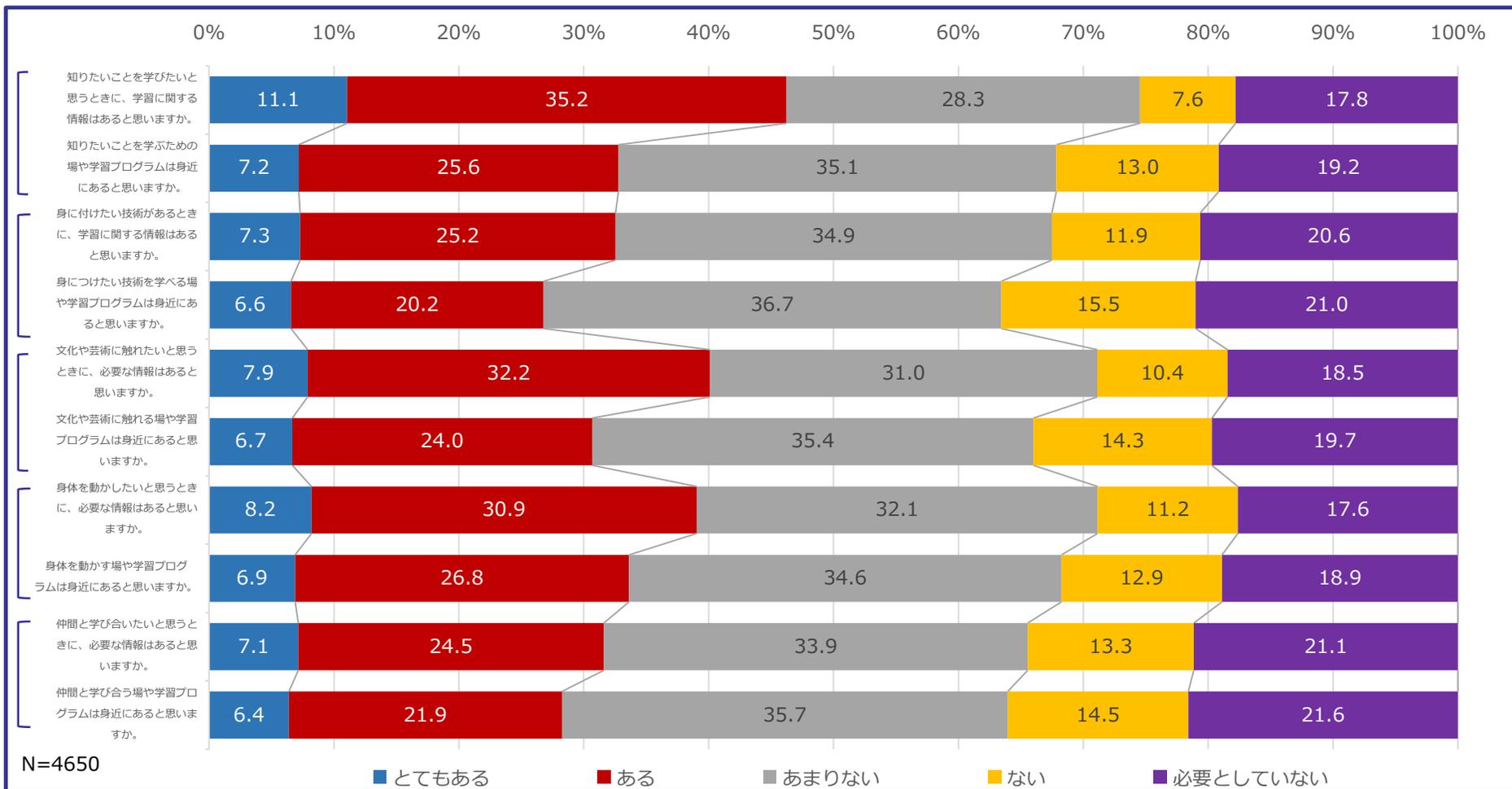
# 「共生社会」の実現に向けた障害者の学習機会の充実の重要性に関する認識(障害種別)

- 「共生社会」の実現に向けて、障害者の学習機会が充実されることについては、81.1%が賛同。
- 発達障害(自閉症あり)がある者は「そう思う(47.2%)」とする者が他の障害種別に比較して高い傾向。



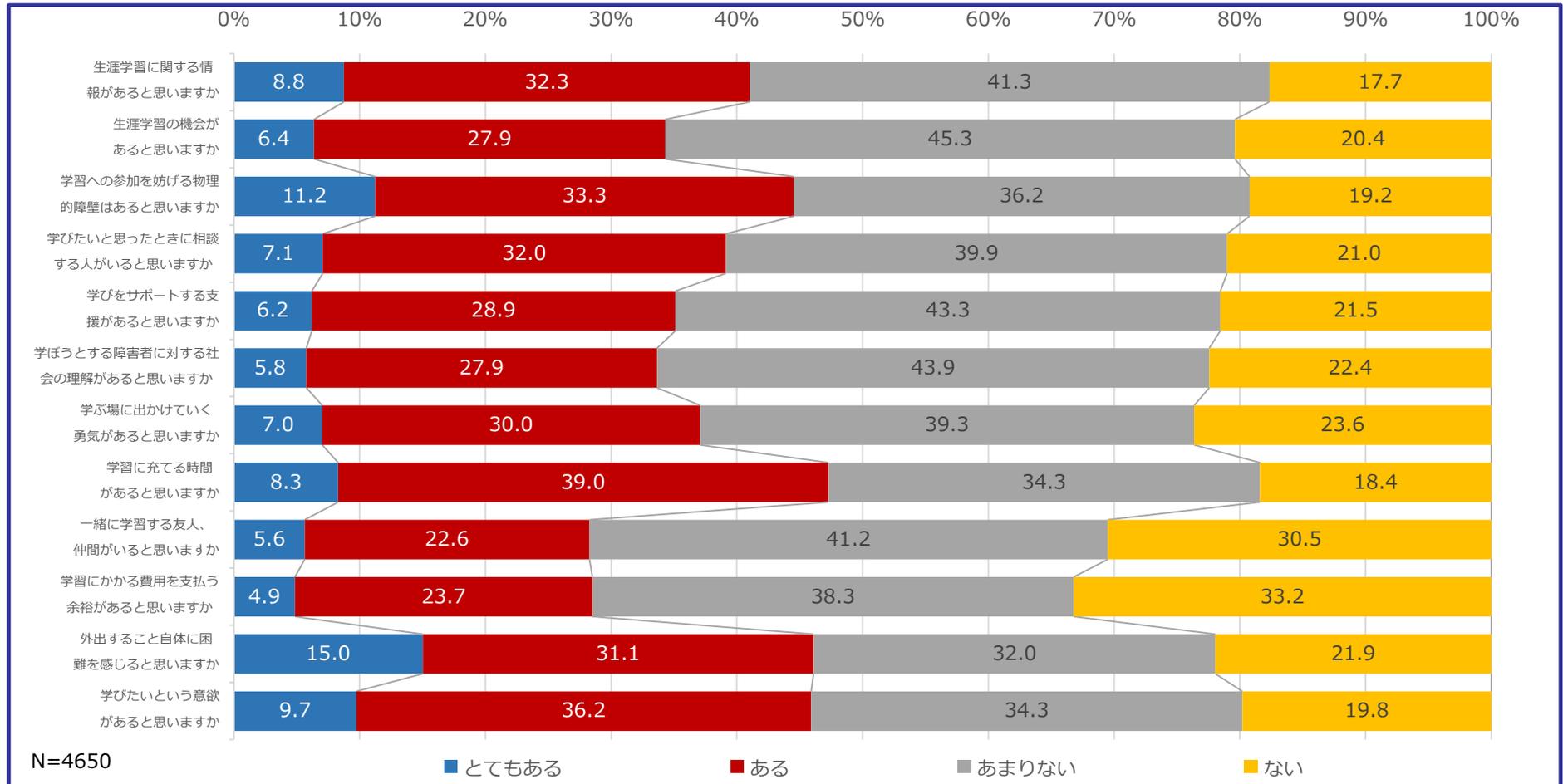
# 学べる機会・情報が身近にあると感じているか

- 身近に感じているものとして、情報については「知りたいことを学びたいとき(46.3%)」「文化や芸術に触れたいとき(40.1%)」「身体を動かしたいと思うとき(39.1%)」の順に高い。
- 場やプログラムについては「身体を動かすこと(33.7%)」「知りたいこと(32.8%)」「文化や芸術(30.7%)」の順となっている。
- 一方、身近に感じていないものとしては「身に付けたい技術があるとき(26.8%)」「仲間と学び合いたいと思うとき(28.3%)」の場やプログラムがあがる。



# 生涯学習に関する課題

- 一緒に学習する友人、仲間が「いない, あまりいない(あわせて71.7%)」、学習費用を支払う余裕が「ない, あまりない(あわせて71.5%)」、学ぼうとする障害者に対する社会の理解が「ない, あまりない(あわせて66.3%)」等が上位の課題としてあがる。



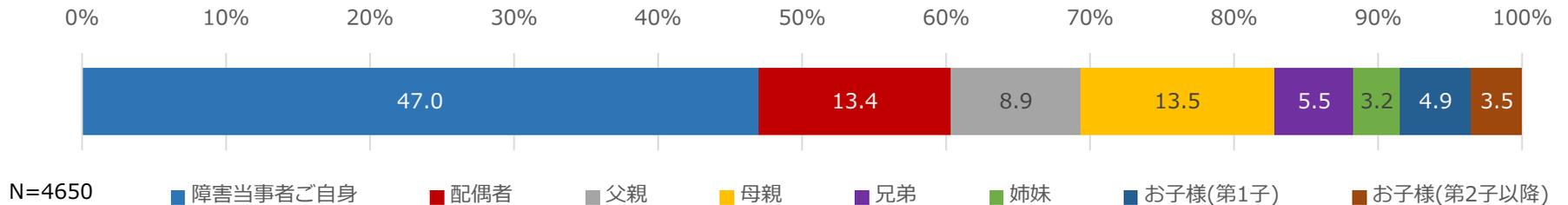
# 障害者本人等への学校卒業後の学習活動 に関するアンケート調査結果 回答者基本属性

(参考: 速報値)

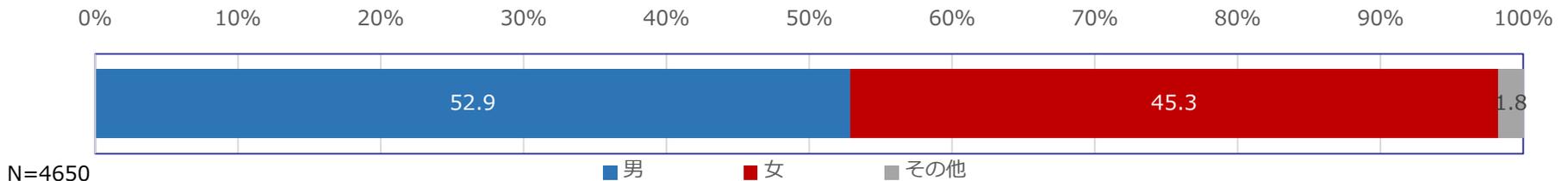
# 回答の対象となる障害者の続柄・性別・年齢

- 回答の対象となる障害者の続柄については「障害当事者について」が47%，次いで「母親について(13.5%)」となっている。
- 男女比はほぼ半数ずつとなっている。
- 年齢については「75歳以上」が14.5%となっている。

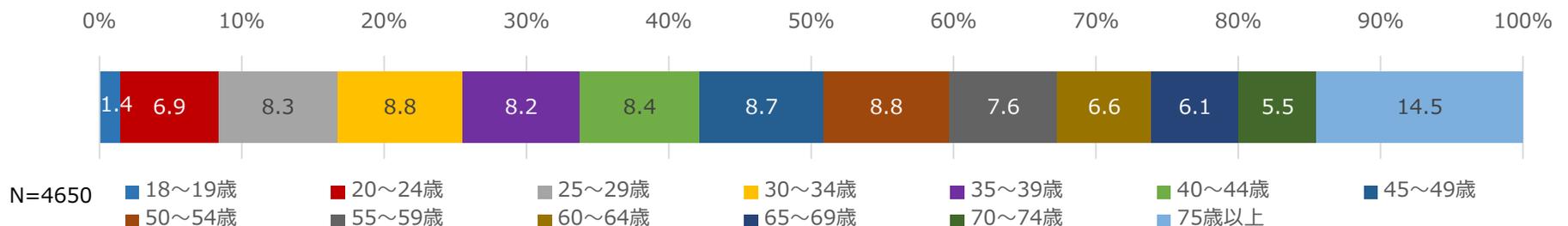
回答の対象となる障害者の続柄



障害当事者の性別

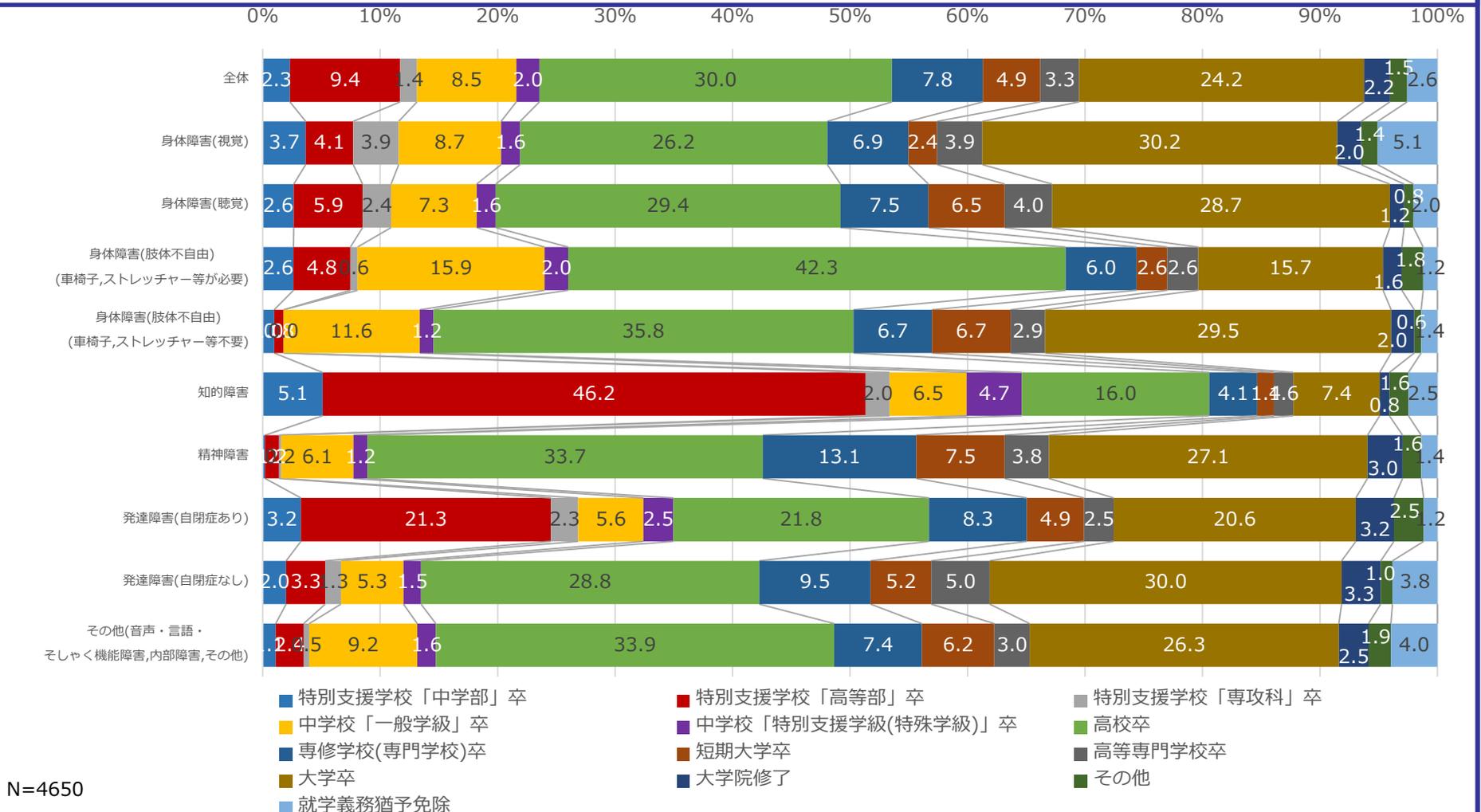


障害当事者の年齢



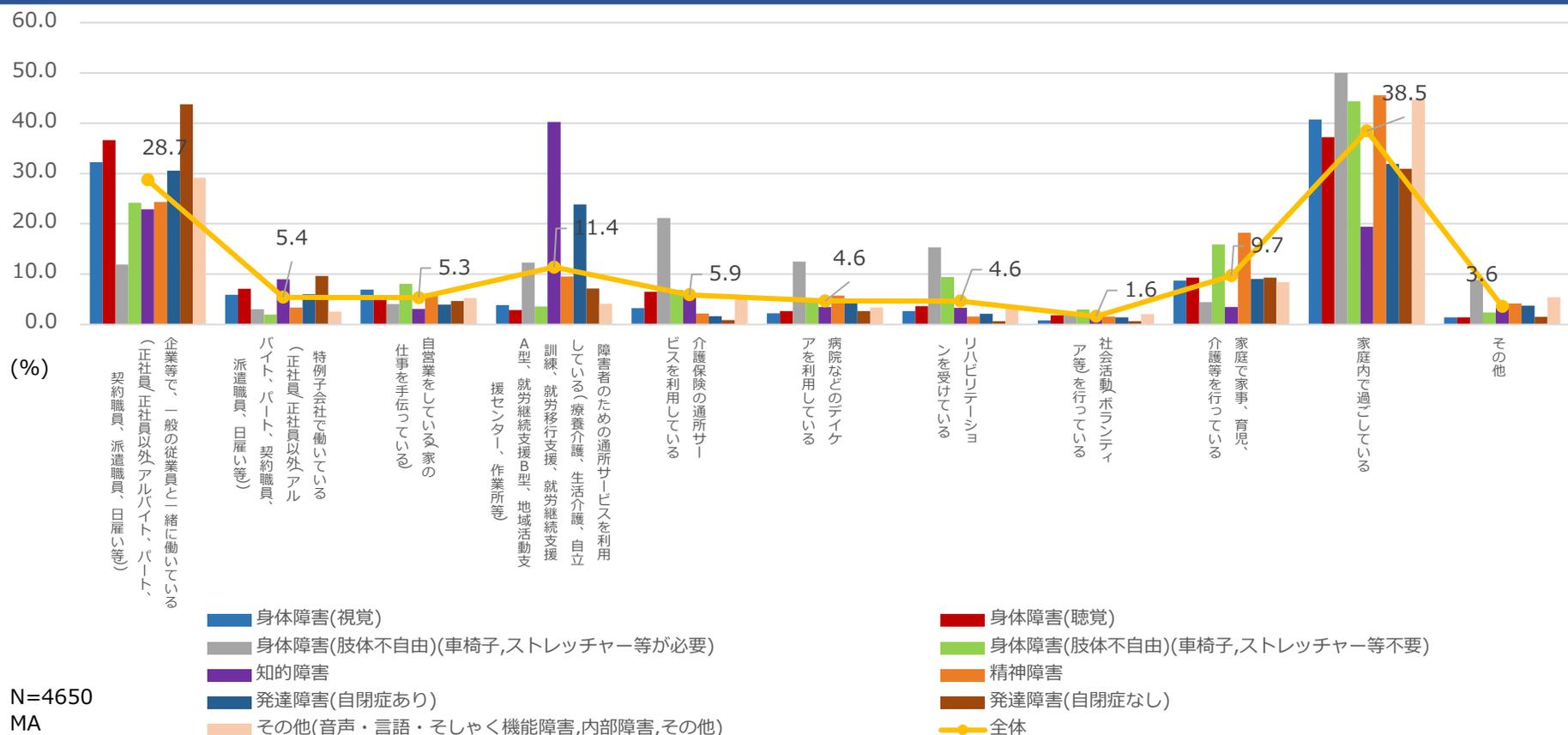
# 最終学歴 (障害種別)

- 全体としては、「高校卒(30%)」「大学卒(24.2%)」の順となっている。
- 知的障害がある者、発達障害(自閉症あり)がある者は「特別支援学校高等部卒」の比率も高い(それぞれ46.2%, 21.3%)。



# 日中の活動状況 (障害種別 ; MA)

- 全体としては「家庭内で過ごしている(38.5%)」「企業等で一般の従業員とともに就業(28.7%)」「障害者のための通所サービスを利用(11.4%)」が上位にあがる。
- 身体障害(肢体不自由)(車椅子,ストレッチャー等が必要)がある者は「介護保険の通所サービスを利用(21.2%)」「リハビリテーションを受けている(15.3%)」「家庭内で過ごしている(50%)」とする者が他の障害種よりも高い傾向。
- 知的障害がある者, 発達障害(自閉症あり)がある者は「障害者のための通所サービスを利用(それぞれ40.3%, 23.8%)」とする傾向。
- 発達障害(自閉症なし)がある者は「企業等で、一般の従業員と一緒に就業(43.8%)」とする傾向。



# 日頃つかっている(触れている)情報源(メディア・施設等)(MA)

- 日頃つかっている(触れている)情報源としては「テレビ・ラジオ(60%)」「新聞・雑誌・書籍(45.4%)」「インターネット(webサイトや講座情報の検索サイト)(41.4%)」の順となっている。
- 生涯学習について、つかっている(触れている)情報源も「テレビ・ラジオ(19.6%)」「新聞・雑誌・書籍(18.9%)」「インターネット(webサイトや講座情報の検索サイト)(17.7%)」の順となっている。

